

成果の説明書

(氏名) 関口 智子	(学部) 地域政策学部
1 重要事項	
(1) 両学部一元化英語カリキュラムの運営	
① 非常勤講師採用	
2017 年に開始された両学部一元化英語カリキュラムでは、必修クラスは 1 クラス 24 名ほどの少人数クラスが大きな特徴となっている。少人数クラスを継続して実現するために、2019 年度も引き続き積極的な非常勤講師の採用を行った。	
2020 年度に向けて、2018 年度は年 3 回だった公募を 2019 年度は計 6 回に増やした。2019 年度は、特に時間割をほぼ確定した年末年始にかけて辞退者が出たために対応に苦慮した。次年度に向けては、2019 年度同様、①早い時期から募集に着手し、同数程度の採用を行う、②現非常勤講師に適任者を随時紹介してもらうなど間口を広げ、さらに積極的な採用活動を行っていく必要がある。	
② 必修英語科目の試験実施方法変更	
必修英語科目の General English (GE) I-IV では、学期末に 1 分間のスピーキングテスト(Common Speaking Test, CST)を課している。2018 年度は、CST をすべて PC 教室で実施し、学生のスピーチを録音ソフトで録音していた。しかし、そのために普通教室を使用しているクラスを、CST 実施期間 (第 14 週および 15 週) のみ、PC 教室使用のクラスと教室を入れ替えることで対応していた。学期末に年 2 回の教室変更という煩雑な作業を省くために、2019 年度からはすべてのクラスで、IC レコーダーで録音するという方式に変更した。	
毎学期の初めに、CST 手順を改訂し各教員に配布しているが、今年度はその変更点を重点的に改訂し、Appendix を日英両言語で作成した。また 2018 年度同様、担当教員対象のワークショップを実施し、変更点の説明を行うとともに、実際に IC レコーダーを使用してもらい、当日混乱なく実施できるよう体制を整えた。	
(2) 研究	
出版論文：	
「英語の冠詞習得を促す試み：何をどう教えるか」 『地域政策研究』第 22 巻第 4 号、大河原眞美教授退職記念号 pp.191~pp.200、2020 年 3 月	
2 その他の事項	
3 次年度以降の計画・抱負	
2017 年度に開始された英語カリキュラム一元化も 4 年目を向かえ、今後も新たな非常勤講師の採用、シラバスおよびテキストの再検討、クラス担当者の配置など、現カリキュラムが円滑に実施されるよう取り組みたい。	